

## 「前潟ファームの拡張と食育」

ぷらいむ・たいむ前潟校（盛岡 YMCA）

### 1. プロジェクト概要と実施内容

今回、私たちが行ったプロジェクトは「前潟ファームの拡張と食育」です。盛岡 YMCA 前潟センターでは、前潟センターの目の前にある畑「前潟ファーム」で毎年、子どもたちと野菜作りを行ってきました。前潟ファームは、「子どもたちと一緒に野菜を育てたい」、「自然との触れ合いの場を提供したい」という想いでスタートしました。しかし、環境教育という視点での活動



ができていませんでした。そこで、今回のプロジェクトで前潟ファームの拡張と整備を行い、様々な野菜・果物の栽培を通じた環境学習を行うとともに、より子どもたちに前潟ファームとの関わりを通して食べ物の大切さと持続可能な生産と消費、多様性のある社会について考える機会にしたいと思い、このプロジェクトを企画しました。

今回のプロジェクトの活動内容である前潟ファームの拡張・整備を行う開墾作業の企画実施日は5月2日、3日を予定し、2月1日から、まず前潟ファームの拡張と野菜・果物の品種を吟味し、拡張と整備について考えました。どのように野菜・果物を定植するか配置を決め、どのくらいの範囲が必要なのかを重点に置き、企画実施日までに必要な物品などを決定しました。また、定植時期・収穫時期などを考え、時期に合わせた活動が今後もできるように考え、実際に完成予想図などを作りながら決めていきました。今までの前潟ファームでの活動や収穫時期を基にし、また子どもたちが楽しく野菜・果物の栽培を行っていただけるような品種を考えました。子どもたちが「楽しい」と思えるような栽培をすることで、フードロスや食べ物の大切さについて考えるきっかけを深めていきたいと思ったためです。

このプロジェクトの活動内容である前潟ファームの開墾作業を5月3日に行いました。職員とボランティアリーダーの合計11人が参加し、前潟ファームの開墾作業を行いました。

2日間を予定していましたが、天候が悪く、1日だけの作業となってしまいました。開墾作業では事前に職員が新しく開墾する場所を設定し、その区画を開墾するという作業内容です。当日も午前中に天候が不安定な中のスタートでしたが、午後からは天候が良くなり、新しい品種を植えるための畑の土台を作ることができました。今まで手をつけていない場所を畑にするために1からのスタートです。それまでただの草むらだった場所を、耕運機を使い区画内の土を柔らかくしながら、区画内の石を取り除くという作業です。新しく開墾する場所は4カ所あり、耕運機が使えない時には、スコップを使い、深さ30センチほどを掘り、土を柔らかくしながら石を取り除きます。見える石を取り除いた後は、またさらに同じ場所の土を柔らかくするために、くわで耕しながら石を取り除くという作業を繰り返します。前潟ファームは河原近くにあるため、新しく開墾する場所からは大きな石から小さな石までいくつも埋まっています。ただ、耕すだけでは野菜・果物を定植する際に障害物となり、子どもたちやボランティアリーダーが定植することが難しくなってしまう、また野菜・果物の成長にも影響が出るため、丁寧に土を耕し、石を取り除いていくという作業を繰り返すことが重要となる為、参加した職員、ボランティアリーダーで重点的に行いました。

このプロジェクトでは、子どもたちが野菜・果物を栽培することで食べ物の大切さと持続可能な生産と消費、多様性のある社会について考えることを目的とし、拡張の他に食育をします。今後は、新しく開墾した畑と今まで野菜・果物を栽培してきた畑を使い、職員、ボランティアリーダー、子どもたちと野菜・果物の定植を5月中旬から6月中旬にかけて行います。定植では、今までも野菜・果物の栽培でご指導・ご教授してくださっている方から助言をもらいながら、様々な野菜・果物の品種の定植を行います。9月～11月にかけて野菜・果物の収穫を職員、子どもたち、ボランティアリーダーで行いながら、食べ物のお大切さやフードロスなどの多様性のある社会について考えていきます。

## 2. このプロジェクトを通じて考えたこと

プロジェクトとして今回、活動している職員、ボランティアリーダーを見ていて、「楽しさ」、「達成感」などの喜ぶ気持ちが強く感じられ、興味の幅が広がるのが改めて目に見えて分かりました。今まで子どもたちと前潟ファームで春には畑を耕し、草取りなどの整備を行い、定植後は子どもたちと野菜・果物を栽培し、収穫してきました。毎年、子どもたちは「楽しみ」ながら、嬉しそうに栽培し収穫してきた様子を見てきました。

今回、参加してくれたボランティアリーダーの中には前潟ファームでの活動が初めてのリーダーが多くいました。開墾作業は活動していない方が思っている以上に大変な作業であ

り、またその後の栽培にも影響する重要な作業です。その大変な作業を参加してくれたボランティアリーダーたちは、楽しそうに笑いながら作業をしていました。「体が痛い」「石が多い」と話をしていましたが、その顔はとても疲れを感じさせないほど楽しそうに、また達成感を感じながら行ってくれているのが分かりました。開墾作業中の畑から出てくる石の形や大きさ、初めて使う耕運機や農機具、土の中から出てくる見たこともない虫を見て、ボランティアリーダーたちは、活動するたびに興味を持ち、興味の幅が広がり、「楽しさ」と「達成感」に満ち溢れていました。自然と触れ合うことで、色々な感情が出てくること、興味を持っていくことを改めて感じる一面でした。毎年、畑作業をしている子どもたちがいつも「楽しさ」と「達成感」を感じている様子を見てきました。そのたびに職員にも子どもたちの感じた気持ちや思いが伝わり、今まで前潟ファームの活動をしてきたことを思い出しました。また、その事を改めて感じ、思い出したことで、1人の思いや気持ちが周りにも伝わり、「楽しさ」、「達成感」などの喜びを全員で感じられていると考えました。「楽しさ」、「達成感」などのプラスの気持ちが周りに伝わることで、さらに大変な作業もプラスな気持ちで活動できることを学びました。また、本で得られる興味も大切だと思っていますが、実際に触れることでより興味が増えていくことも学んだことの一つです。そんなプラスになる気持ちや思い、興味が今後の子どもたちの成長にも繋がっていくのだと考えます。

1人の気持ちや思い、興味が周りに伝わり、伝わった人がまたその気持ちや思いなどを他の人へ繋いでいくと考えると、環境教育や食育の他にも人との繋がり、人の思いに共感することを学べる場になると、ボランティアリーダーの様子や今までの活動での子どもたちの様子から、学ぶことができました。

野菜・果物を育てていくこと、自然と触れ合える場があることで、色々な感情が芽生え、興味が広がるということを改めて学びなおし、また気持ちや思いを周りが受け取ることで人との繋がりや共感することの大切さを学んでいく場になると考えることができました。

### 3. 今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイス

今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイスとしては、「なんのためにその事に挑戦するのか」をはっきりさせることが重要だと思います。「これをやったら、どんな影響があるのか知りたいから」、「自分たちが成長していきたいから」、「この人たちのために活動してみたい」など理由は様々あると思います。その理由を明確にはっきりさせることで、企画を実施するための段取りや準備がしやすくなり、企画後の成果についてもしっ

かりと見通しがつくと思います。今回、私たち盛岡 YMCA 前潟センターで実施した「前潟ファームの拡張と食育」は、「子どもたちのために前潟ファームを拡張し、野菜・果物の栽培から食べ物の大切さやフードロスなどの多様性のある社会について考える場を作りたい」という目的をはっきりさせたことで、実施するための準備や段取り、企画後の成果について考えることができました。しかし、どれだけしっかりとスケジュールをたてても上手くはいかない時もあります。ただ、その経験を学べることは今後の活動に役立てていけます。また、活動中も多くのことを考える場になり、また学ぶことが多くあります。企画した側だけでなく、一緒に活動する人やボランティアに参加してくれる人たちにとっても良き学びになると思います。これからユースチャレンジを希望する方々は、その経験や学ぶ機会になると考えています。ぜひ、はっきりとした目的・理由をたて、企画してもらえればと思います。